

## R70a CL0016 銀河団 ( $z$ 0.55) に付随するサブクランプの分光観測

星 貴子 (明星大学)、児玉 忠恭 (国立天文台)、他 PSCES team

PISCES プロジェクトの一貫としてすばる主焦点カメラで撮られた CL0016 銀河団の多色撮像データから、銀河団の銀河一つ一つの photometric redshift が求められた。この phot- $z$  の分布から銀河団の周辺部に大規模なフィラメント構造の存在が示唆され、昨秋この構造を確認するべく FOCAS による分光フォローアップ観測が行われた。本講演で報告するのは、このフィラメント上にある一つのクランプ (銀河群) 領域についてである。

今回解析したクランプは多色撮像で撮られた領域の銀河団本体の南側の小さなクランプである。このクランプにある 36 の銀河を分光したところ、29 個の銀河団の赤方偏移を測ることが出来た。そのうち  $0.545 < z < 0.552$  にある銀河をメンバーとすると、14 個が CL0016 銀河団本体とほぼ同じ赤方偏移にあることが判った。つまり、このクランプが銀河団に付随する銀河群であることが証明されたのである。今回の観測により、多色撮像で見られた大規模なフィラメント構造の存在が確認された。銀河団本体と比較するとこのクランプは小さいものではあるが、銀河団本体と何らかの相互作用があることは明らかである。本公演では、これまでに解析したデータを元にこのクランプの速度分散から、CL0016 銀河団がどのような構造を持ちこのクランプが銀河団本体とどのような力学的相互作用をしているかを見ていく。